

乾燥地を拓く

鳥取大学 ITP だより

1

「海外に教育、研究のフィールドを求めよう！」。これは、国立大学の機能別分化が現実となりつつある現在、鳥取大学がその教育、研究機能について打ち出したメッセージです。

鳥取大学は「知と実践の融合」を教育理念として、長年海外で実践的な教育、研究を行ってきました。例えば、全学から20人程度の学部学生を選抜して、メキシコへ約3カ月間派遣するメキシコ実践教育カリキュラム。これは、学生が現地で講義を受講し、調査実習を行うことができる本学独自の教育プ

現地で受講、調査実施

——独自の教育プログラム——



中国でプログラムの論文発表会が開催され、約1年に及ぶ海外での研究結果を発表した学生たち。研究力、人間力とも、この1年で大きく成長した=8日

プログラムです。

ほかに、若手研究者が海外の現場でフィールド研究を行う機会を積極的に・戦略的に設けるなど、国際社会で活躍できる人材の育成を目指しています。

このように、鳥取大学は、実践力を重視した数多くの教育、研究プログラムを海外で広く実施していますが、とりわけ乾燥地科学は、鳥取大学において最も実績・特色ある研究分野のひとつとして、力を入れています。

現在、学部、修士課程および博士課程学生を対象として、それぞれ「メキシコ海外実践教育カリキュラム」、「若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム（ITP）」そして、「グローバルCOEプログラム」を設けており、学部生から大学院博士課程学生に至るまで、乾燥地に関する

教育を体系的に与える仕組みを築いています。

このうち、「ITP」は、鳥取大学が国連大学らと共同で実施する国際プログラムで、毎年5人程度の学生をチニジア、シリア、中国の乾燥地に約1年間派遣し、乾燥地に関する講義と、乾燥地をフィールドとした研究を行うものです。

講義や研究指導はすべて英語で行われ、多国籍の学生と共に学び、研究することにより、豊かな国際感覚と語学力を養うことができる、まさにインターナショナルなプログラムです。

次回から毎月1回、鳥取大学ITPだよりを連載いたします。学生、教職員の高い思いと、その成果にご期待ください。

(鳥取大学国際交流センター長・副学長 若良二)